

ぎやらりー



NO. 64

2013年10月号

編集・発行 NPO法人グループわ(堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830

●花の村内散歩
フヨウ(木村成男撮影)



花実の森で楽しく学習

花実の森で自然体験教室のオリエンテーションを受ける大池小の子どもたち

めっちゃ楽しかったよ——花実の森プロジェクト(菅田忠志代表)の第1号となる環境学習が秋晴れの9月25日、北区大池小3年の子供たち42人を迎えて実施されました。朝9時、バスでやってきた子供たちが集合し、6班に分かれて活動開始。学習内容は、木や草の葉を集めることと、カブトムシの幼虫を引っ越しさせることです。各班にスタッフが数人ずつついて葉っぱを集めながら散策道を巡ります。ロープ

を伝っての急斜面では、子供たちの歓声が弾みます。カブトムシの引っ越しは、腐葉土の中で丸々と太った幼虫を、土と共に袋に入れて「大池小」と看板のある新居に運ぶものです。「いろんな葉っぱが集まりよかった」「作った茎笛が鳴ってうれしい」と口々に感想が飛び出しました。菅田代表は「3年間かけて整備した甲斐があった」と満足そうでした。

(取材・広報委員徳原尚世)



ボランティアの
輪をひろげよう

台風下、開校20年式典セーフ 2～4面に関連記事

台風24号接近で危ぶまれたカレッジ開校20周年の記念式典と震災シンポジウムは、10月9日に予定通り開催されました。記念碑除幕式は中止となりました。

父子ピアノ連弾コンサート	5面	グラフ 夏のメモリー	6・7面
ボランティアの心	8面	8団体表彰される	9面
*文化ホール優待割引券添付	12面	*カフェ・エスケール優待割引券添付	7面

64号の主な内容

震災シンポジウム特別号発行

震災支援「あの時」の体験熱弁

〈阪神から東北へ…〉シンポジウム開催

〈阪神から東北へ…KSCの震災ボランティア〉をテーマに、開校20周年の記念シンポジウムが10月9日、カレッジホールで開催されました。台風下、出足は鈍かったものの熱心な卒業生や在学生250人が入場。阪神大震災の体験談や東北支援報告、宮城の復興状況に聞き入っていました。記録ビデオ、消防音楽隊の演奏も好評でした。ロビーではパネル写真展や東北物産販売もあり、賑わいました。シンポジウムはグループ〈わ〉が春から取り組んできたもので、多くの方の協力で開催に漕ぎつけました。（広報・南形徹）



今井学長



今野三幸氏



胤艸武宏氏



佃孝司氏



増金スミ子氏



三品隆氏



小池裕氏

午後1時開会。今井鎮雄学長が「超高齢化社会を迎える日本では、人と人が互いに支え合う社会を築くために、カレッジ生が担う福祉ボランティアへの期待は高まっている」と挨拶したあと、仙台豊翰学園、女川町などからの祝電が披露されました。

名取市社協常務理事・今野三幸氏は、東日本大震災による名取市の被害と閑上地区の復興について語りました。次いで、阪神大震災の記録映像を上映。救援物資が山積みされたカレッジ、こった返す温泉センター、芝生広場に並ぶ自衛隊のテントなど貴重な風景が映し出されました。

1期生の胤艸武宏氏は温泉センターでのボランティア体験を語り、福祉振興協会の佃孝司氏は、救援基地となった、しあわせの村の対応ぶり、現在も継続している東北支援活動を紹介しました。

続いて、東北支援活動の記録ビデオを上映。田んぼの瓦礫作業、仮設の皆さんや子供たちとの交流風景、津波で壊滅した町や学校の惨状が次々と展開されるシーンに、会場からため息が漏れました。

東北支援チームに4回とも参加した増金スミ子さん(福12)が玉すだれの衣装で登場。子供たちや仮設の女性との触れ合いで感じた思い出を披露しました。

閑上小学校長の三品隆氏は、「支援と受援」の関係を説き、学力向上を図るため、女川で「向学館」という学習の場を作った経験を語りました。

ここで18期のG学習「笑い届け隊」8人がチンドン屋風の衣装姿で登場。珍妙なパフォーマンスに拍手と笑いが…。

KSCのボランティア活動は、外部からどう見られているのか。神戸市社協の小池裕氏は「グループ



ロビーでは震災支援活動の写真パネル展

〈わ〉は、ボランティアの総合病院。企画から記録、自主財源まで自己完結している素晴らしい組織だ」と講評。閉会の挨拶で、堺理事長が東北支援を今後も続けると力強く宣言しました。

最後に、神戸市消防音楽隊が特別出演。防災の話を交えて、名曲をメドレー演奏し、大きな拍手を浴びました。お別れに「花は咲く」「ふるさと」を客席と一緒に歌って、午後4時20分に散会しました。

活動振り返るパネル写真展

ホール入口付近では、阪神大震災や東北支援関係の写真約80枚と新聞号外をパネル20面に展示しました。生々しい報道写真もあり、入場者は当時を思い起こしながら「貴重な写真ばかりですね」と感慨深げに見入っていました。写真の一部は神戸新聞・読売新聞・神戸市消防局・振興協会、上野照男氏(福1)から提供を受けたものです。

20周年式典 台風余波で簡素に

グループ〈わ〉に感謝状

シルバーカレッジ開校20周年を祝う記念式典が10月9日10時からカレッジホールで行われました。台風24号の接近で「警報発令なら中止」とあって参加者の出足は伸びず、予定の7割、350人ほどにとどまりました。

午前10時、音文専攻生による校歌斉唱で開会。矢田立郎・神戸市長から「第二の人生をボランティアとして活動しているカレッジの皆さんはすばらしい」と励ましの言葉があり、今井学長が「卒業生は6,000人を超えた。この中からグループ〈わ〉が生まれたことに感謝したい」と挨拶。崎元祐治・市会副議長からは「阪神から東北に続く支援活動に敬意を表する」との祝辞がありました。

この後、「再び学んで他のために」の建学精神の実践に貢献しているとして、今井学長からグループ〈わ〉に感謝状が贈呈され、記念碑と記念植樹の紹介がありました。

第2部は、新野幸次郎・元神戸大学学長が「日本の再生を担うシルバー・エイジ」と題して講演。

「高齢社会がしあわせであるためには、〈漫然と生きている〉から〈目標を持って生きていく〉高齢者をふやすことが必要」と訴えかけました。

〈他の為に〉記念碑完成

式典に先立って、9時15分から記念碑の除幕式が予定されていましたが、台風のため中止。代わって学長室で記念品目録の贈呈式がありました。今井学長、矢田市長、カレッジ運営委員、記念事業実行委員ら25人が参列。学生代表の階戸宏幸氏（食18）から目録が今井学長に贈呈されました。内訳は記念碑・江戸彼岸桜苗木30本・植樹経費となっており、桜は12月末をめどにキャンパスと、神港園・リハ神戸など6施設に植えられる予定です。

記念碑は10月初め、玄関前に建立されましたが、除幕式は中止となりました。碑は今井学長の揮毫で〈再び学んで他の為に〉の校訓が刻まれた高さ80cm、幅150cmの御影石製です=12面に写真。

寄付金は10月5日現在、●3,200口289万円が集まっており記念碑・植樹代のほか、図書の実、パソコンソフトの購入に充てられる予定です。



好評…東北物産完売

笹かまぼこと牛タン佃煮を販売した東北物産は大好評。かまぼこは予約と当日売りを合わせ300個、佃煮も145個を完売しました（写真）。生ものとして、当日限りの受け渡し制にしたため、多少混雑しましたが、昨年の東北報告会で「おいしい」と評判になり、昨年の倍近い注文がありました。このほか、シンポジウムの中で上映されたビデオ『震災ボランティア奮闘』（17分）を200円で頒布。石巻市雄勝



18期G学習メンバーのパフォーマンス

震災シンボ関係の写真は木村成男・中屋好生撮影

町の被災者が貝殻で作った携帯ストラップを、北村緑朗さん（国17）のグループが1個350円で販売しました。これらの純益約7万円は、昨年に引き続き女川・名取の子供たちへのXマスプレゼントに充てる予定です。振興協会も伊達の燻製や小物、アイスクリームを販売しました。

笹かまぼこは、東北支援を通じて知りあった女川町のメーカーの好意で販売しています。担当の芦田理事は「台風が来たらどうなるか、前夜は眠れなかったが、いやあ、よかったよかった」。

震災支援シンポを終えて

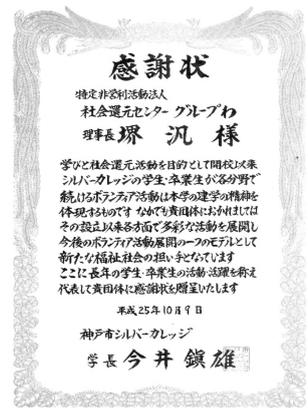
台風接近で参加者が少なかったのは残念でしたが、内容的には、ほぼプラン通り実施できました。会場アンケートでも「満足した」が7割近くありました。

このシンポジウムは今年2月、カレッジから要請され8か月かけて準備したものです。特に阪神大震災当時、カレッジ生はどういう状況だったか、誰が、どこで、どんなボランティアをしたのか。きちんとした記録・写真類が殆どなく、先輩諸氏を訪ねて歴史を掘り起こすことから始めねばなりません。でも、そうした努力の結果が高い満足度につながったと自負しております。

アンケートには「再び学んで…の大切さ、ボランティアの重要性がわかった」「くわの支援活動に胸が

一杯になった」「消防隊の防災の話と演奏も良かった」という感想もありました。

堺理事長は閉会挨拶で東北への支援継続を力強く宣言しましたが、会場の皆さんからも「これからも頑張って」「東北ツアーの企画を」「誰もが参加できる支援プログラムを」など、前向きな声が寄せられています。「神戸モデル」と講師から称賛され、感謝状まで頂いたことを肝に銘じ、さらに1年がんばります。ご協力をお願いします。東北支援プロジェクト



大動員で式典・シンポ運営

20周年式典と震災シンポジウム、コンサートが続いたため、グループ〈わ〉は8日のリハーサルから10日まで、会場作り・受付・駐車場整理など大忙し。理事だけでは手が足りず理事OB、北区会、ぴかぴか隊などの協力で準備・運営に当たりました。

【震災シンポジウム運営】 ▼東北プロジェクトチーム＝堺・南形・芦田・海野・大澤・増金・橋野・波多野・片岡・内村・板谷・田路・古後▼わ本部＝小畑・井上・北浦・木田・井口・吉本・俵・山本・北村・西山・土井・小林・西田・長谷川・古川・江本▼協力者＝淡路・飯川・北山・吉武・道満・大垣・木村・中屋・伊谷・庄田・石谷・堺(寿)・黒野・平林・南形(公)・宮崎・18期G学習笑い届け隊【10日のコンサート】ぴかぴか隊の協力で駐車場整理

学園祭で東北支援募金 グループ〈わ〉と学園祭実行委員会は10月12日、学園祭会場で東北支援活動などに充てる募金活動を実施。約4万円の協力が得られました。

サポート募金賛同者 (7月11日～10月11日)
住田暉江 (食3) 1千円、環境未来館有志3千円、植田収 (福7) 2千円、宮崎彌生 (福5) 1千円、千原美哉子 (福9) 5千円、山下博邦 (福17) 1万5千円、水上桂子 (音17) 5千円、環境未来館募金箱4千470円

お礼 震災支援シンポジウム、東北物産販売は、〈わ〉の会員や在学生の皆さまのご協力で、無事ゴールできました。ありがとうございました。

【シンポジウム6氏の発表内容】

●東日本大震災への対応と復興 (名取市社会福祉協議会・常務理事：今野三幸) 市内7か所に1,100戸の仮設住宅を建設。大きな課題は町の復興です。被害の大きかったのは、閑上地区と下増田地区ですが、下増田は既に集団移転が決定。閑上は行政と住民の考えが一致しておらず、協議を重ねて計画の変更を行っているところです。

- 阪神大震災のボランティア体験 (福祉1期：胤州武宏) 神戸の惨状を知り、使命感に動かされボランティアを希望。事務局で紹介された物資の仕分けと温泉の整理を担当した。仕分けで一番困ったことは古着の扱いでしたが、その時の経験から状況認識の大切さを学び、温泉開放では多くの方と接し、人間模様を見る機会を得ました。
- しあわせの村の震災活動 (福祉振興協会・企画広報係長：佃孝司) 阪神淡路大震災では村全体が救援基地。消防や自衛隊のテント村になり仮設住宅が建てられた。温泉の開放では13万人の利用者があった。東日本大震災では、いち早く募金で購入した物資を届けたほか、毎年、応援メッセージと共に支援隊を派遣している。今後も関係機関や〈わ〉と連携して東北支援を継続したい。
- 第1～4次の支援活動で感じたこと (福祉11期：増金スミ子) 想像以上の悲惨な状況を目のあたりにして、改めて津波の恐ろしさを実感。「子どもたちに未来はあるのか」と思いましたが、回を重ねるごとに明るく元気になっていく姿を見て安堵しました。支援を通じて、人との繋がりや素晴らしい数々の体験ができ、本当に嬉しい。東北は私にとって第二の故郷です。
- 3・11これまでとこれから (名取市・閑上小学校長：三品隆) 全国各地からの支援で、子どもたちは元気と勇気もらったが、教育現場では支障をもたらすこともあった。支援に対する「受援」の力、即ち、コーディネートの重要性を実感しました。学力低下を防ぐため、女川では向学館という学習の場をつくり活用しています。今春から閑上小に移り、学校再建に取り組んでいます。
- 外からみたKSCのボランティア (神戸市社協・広報交流部長：小池裕) カレッジはボランティアの総合病院。どんな難しいニーズでも、創意工夫と協力で引き受け貰える安心感があります。東北支援の凄いところは、企画から受け入れ先の調整、自主財源の確保などすべて自己完結という点です。今後とも、神戸のボランティアリーダーとして、東北へ支援の輪を広げていただきたい。【今井学長のメッセージは、「ぎゃらりー特別号」に掲載しています】

♪ 「父子が奏でるピアノに感動」 ♪

学習支援コンサート大入り

〈障害を乗り越えて生きる、ある音楽家と家族の歩み〉と題した父子のピアノ連弾コンサートが10月10日、学習支援活動の一環としてカレッジ音楽室で開催されました。出演は神戸女学院大学教授（指揮者）の中村健氏と長男の中村徹氏。プログラムは父子による連弾と徹氏の独奏、父親の健氏によるトーク。曲目はモーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、徹氏作曲「24のプレリュード”音の手紙”」など10曲。

トークは、ドイツで生まれ自閉症の障害を持つ徹氏をかかえて両親が日本に戻り、父子で音楽活動をするまでの一家の物語です。健氏による軽妙な話術は自閉症のことから、作曲のこと、演奏のことに及び、音楽室を埋めた120人の聴衆は身じろぎもせず聞き入っていました。中でも4本の手、20本の指がめまぐるしく交錯するピアノ連弾の裏話は、興味をそそられたようです。（写真⑤）

健氏は「学習支援関係者がばかりなので、徹の障害（自閉症）を抱えながらの成長について、私たち一家の生活ぶりをお話ししました。参考になったでしょうか」と話していました。

ある女性は「演奏もトークも非常に素晴らしく、感激です。教育関係の仕事に携わっていますが、親子で共に歩み、成長してきたお話を聞いて、今後の活動に大変役に立ちます」と興奮気味でした。

学習支援委員会として、コンサートは初めての



試み。「立ち見が出るほど関心を持ってもらえた」と西田委員長始め委員たちは驚いていました。

松村組熱演、500人を魅了

和太鼓の人気グループ松村組による演奏会が10月10日、20周年行事の一つとして開催され、カレッジホールを埋めた580人の観衆を魅了しました。松村組は阪神大震災の被災者を激励しようと神戸で発足。日本や海外で演奏を続けています。今回の演奏会も事前に整理券を発行し人数制限をするほどでした。

メンバーは男4と女2の6人。うち3人はカレッジの音文講師です。演奏は「青龍」「疾風」など7曲。和太鼓は脳から体を突き抜けて本能を刺激され、マリンバ、オカリナ、篠笛は優しく、柔らかく心を包みこんでくれるようです。力強い熱演に刺激され、観客も手拍子を打って応え、1時間の演奏は興奮のうちに終了しました。（広報：北村洋）

竹の台小5年が伝統文化体験

日本伝統文化体験講座が10月2日、西区・竹の台小学校で実施され、5年生61人が4コースに分かれて実習しました。実技指導は銭太鼓・大正琴・生け花・茶道の各グループ。わずか1時間ほどでしたが、歴史や作法などの説明を受け、実技にチャレンジしました。銭太鼓は、民謡のソーラン節に合わせて演技します。初めて手にする銭太鼓にとまどいながら、リズムカルな振り付けについていこうと、一生懸命です。休憩時間にも「練習をやろう」という児童も出てくる状況でした。どのコースでもまじめに取り組んでいる姿には感心しました。

お次は成果発表です。茶道コースは先生方やお母さんたちにお手前を披露、生け花コースは自分たちの作品を玄関先に展示しました。大正琴と銭太鼓は、全員の前で演奏し、演技を披露しました。子どもたちの感性の素晴らしさ、習得の早さには驚かされました。日本の伝統文化の良さが多少なりとも記憶の片隅に残ったのではないかと、思います。（事業：田路義弘）

「開校20周年 震災支援シンポジウム」「学習支援コンサート」「竹の台小 伝統文化体験」の各行事は、「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」で実施しています。

【訂正】「ぎゅらりー特別号」（10月9日発行）で、「東北支援の記録」の4次隊メンバーに橋野美子さん（一般）の氏名が抜けていました。追加して訂正します。

楽しかった夏のイベント



村祭り

賑わった村まつり

しあわせの村まつりが7月27日に25,000人を超える参加者を得て実施されました。ステージ上では演奏、舞踏、ライブショーなどが行われました。わんぱく広場では昔あそびコーナーではコマまわし、ヨーヨーつり、竹馬などが楽しめ、ペタンク、サッカーボールのスピードコンテストにも多くの参加がありました。バルでは充実したメニューの飲食店があり、ふれあいショップでは風船、ケナフ炭、手作り品などを販売していました。(広報：北村洋)



工作塾

かえっこバザール



玩具をゲット

ポイントを貯めて好きな玩具と交換——8月4日「かえっこバザール」がカレッジホールで開かれ、250人の親子連れが来場。お目当ての玩具をもとめ歓声が飛び交いましたが、入場者は例年の半数たらず。スタッフはやや拍子抜けでした。この催しは(わ)と常盤大の共催。昔あそび・うらしまたろうなど4サークルと北区会などから48人が運営に協力してくれました。北区会は炎天で駐車場の整理。お疲れさまでした(広報：井口久美子)



(撮影：木村成男・中屋好生 井口久美子)



宿題できたよ！！

夏休み工作塾が8月18日に開催され、1000人程度の参加がありました。工作内容はA：木工工作（モービル・動物車・機関車）、B：ネイチャークラフト・折り染め・ケナフ紙すき、C：絵手紙・竹細工・つる細工・パーニングアートとテーマ別の3コースがあり、各テーマに分かれ、熱心に工作していました。創造性を生かすテーマでは、斬新な発想の作品に感心させられました。皆、作品を手にとり満足そうに会場を後にしていきました。(広報：北村洋)

E
Esquerre
サンドイッチカフェ
エスケール

しあわせの村
本館・宿泊館 1F
Tel.078-743-0733
OPEN 7:30-18:00
無休

コーヒー or
ソフトドリンク
100円引き
こちらをご持参下さい
H25.12月末まで有効

ボランティアの心

音楽で楽しい笑顔の交流

千原美哉子（福祉9期：北区会）

幼い頃、お婆ちゃんが重たそうに風呂敷包みを抱えていたので一緒に持ってあげました。これが私のボランティアの始まりです。

そして、KSCとの出会いがあり、人様に少しでも喜んでいただき、また自分も楽しく、老後の生きがいを見つけようと…。そこで、大正琴とウクレレに出会いました。親孝行のつもりで、実家の母に懐メロを弾いてあげると、「懐かしいなあ」といいながら、歌ってくれ、当時の話もしてくれました。〈音楽の力はすごい！〉 母親が、若返ったように見えました。

在学中にクラブで施設訪問をして、一番に感じたことは、スタッフの方の献身的な態度でした。

〈優しい接し方やなあ〉。まさに「こころ」。奉仕の精神なくしては、出来ないことだと思いました。卒業と同時に、「ト音記号」（サークル）をたち上げ、音楽療法士のもとへ通い、「笑顔で話を進めていく」「音楽を心から楽しんでもらう」「あちらと一体になる」「人様の前で、何かを進めることの難しさ」といったようなことを学びました。

施設では、楽しく、心から笑えるお話をと、心がけています。最初は余り反応がなくても、一生懸命やっているとお話を通じ合い、笑顔が返ってきます。皆さんには色々な楽器に手を触れてもらい、一緒に歌い演奏をします。こちら、演奏に夢中になると、つい笑顔を忘れてしまいますが、これは毎回の課題です。



真野福祉センター（長田区）で演奏するト音記号の皆さん

子供たちの相手をするとき、子供たちがリードしてくれます。気を使うこともなく、こちらもパワーを全開し、楽しい時間が過ぎてゆきます。無邪気な姿に感動し、いつのまにか自分も子供の心にかかっています。ボランティアをやっている、一番うれしいことは「楽しかった。また来てね」の一言です。

私たち「ト音記号」は、このほど神戸市社会福祉協議会から表彰状をいただきました。これを心の励みとして、今後もボランティア活動に打ち込みたいと思っています。

暑さ忘れて虫取りに熱中

トンボをとった、クワガタがいたー8月3・4の両日、夏休み昆虫採集教室がジオトープ周辺で行われ、親子づれ200人が参加しました。炎天下、親も



ジオトープでトンボやバッタを追いかける子どもたち 北村洋撮影

子ども暑さを忘れてバッタやセミを追いかけて、次々と捕虫カゴに。玉虫、カブトムシや珍しいカミキリムシをゲットした子もいて「やったあ」と大はしゃぎでした。この日の案内役は里山和楽会と六甲の自然

を守る会のメンバー。神戸いきもの会議の今給黎靖夫先生が、夏の昆虫の特徴や標本の作り方をアドバイス。子供たちはお気に入りの昆虫を標本にして発表、拍手を浴びていました。

野鳥研修会に40人が参加

野鳥と自然観察の会研修会が8月22日、「ひよどり」で開かれ、会員40人が参加しました。講師は、足輪装着をお願いしている山根みどり先生。第1部は、野鳥初心者を対象にした入門編で、夏鳥や冬鳥などの「渡り」について、第2部は、タンチョウの保護活動についての学習をしました。（野鳥と自然観察の会代表：茅中英一）



学習風景＝川上操六（生11）撮影

3団体に環境奨励賞

環境保全に貢献のあった団体を顕彰する「神戸市環境奨励賞」の表彰式が10月16日、神戸市産業振興センターで行われ、堺理事長・芦田、北村両理事と受賞の3団体代表が出席しました。

◆ケナフの会（前田浩三・生14）：ケナフの会結成から営々と環境保護・啓発活動を行ってきたが、今回の奨励賞受賞を大変喜んでいて、ケナフを利用した活動は全国に多数あるが、栽培から炭作り、紙漉きの出前教室までを行う団体は少ないと自負しています。この事業は畑、用具などの資源や、多くの人材が必要であります。この意味において、カレッジの存在に感謝しています。

◆里山グループ（足立 進・園15）：カレッジに接する自然林はコナラなどの多い人工2次林であったものが長年放置され、各種常緑樹が加わり混合林となっていました。生環6期生のグループ学習で整備再生活動に取り組み、自然を親しめる環境にすることを目的に里山グループを結成、夏緑高林を目指し、不用木の伐採を行い、それらを利用し、日の当たる場所では各種の野草や標本木も含め環境学習の場所となっています。

◆銀の匙（辻 郁子・食5）：私たちは食文5期生として在学中から「食」についてのボランティアを続けてきました。平成17年の「食育基本法」の制定後、心身の健康に必要な「食の環境作り」を大切に活動することにしました。特に、神戸市立神出自然教育園や児童館で学びの場を共有できたことを嬉しく思っています。このたび、神戸市環境奨励賞を頂くことになり、感謝しています。これからも、できることを続けて行く所存です。

社協感謝状は5団体

神戸市の社会福祉関係者が一堂に会する神戸市社会福祉大会が9月11日に神戸文化ホールで開催され、次の5団体が感謝状を授与されました。

○ 神戸市長感謝状

◆グループわ 西区会（水野俊夫・国14）：西区社協、福祉事業者からボランティア要請を受けて十数年、会員が高齢者への福祉・奉仕活動を続けた功績が認められ、奉仕活動部門で神戸市長感謝状を受賞しました。今回も受賞の有無に拘わらず、多くの団体や個人が支えあい、協力しながら市民福祉の実現を目指しています。

○ 社協理事長感謝状

◆グループわ 垂水（福原克巳・福1）：9月25、26日2学期の散歩ボランティアが始まりました。メンバーと感謝状を囲み、今までのことを話し合いました。カレッジ開校20周年、感慨深いものがあり、卒業生の活躍も根付いてきました。散歩ボランティアも13年、ピーク時は24人、今は発足時の11人を切る状態です。願わくば、オ

リンピックの灯のごとく、散歩ボランティアの灯が点し続けられることを希望しています。

◆シルバーカレッジ垂水会（板野武一・生16）：シルバーカレッジ垂水会の地域・ボランティア活動に対して、感謝状が授与されました。これは、グループ世話役の確固たるリーダーシップのもと長年、地道に活動し、施設や地域の人々に感謝された賜物であります。今後もこれらの活動に参加する会員が増えていくことを願います。

◆KSC将棋クラブ（カレッジ関連グループ；村本礼治・生19）：今回の受賞は協力して頂いた神戸市立心身障害福祉センターにて、リハビリとして将棋相手のボランティアを行ってきたことに対する受賞です。（兵庫区のボランティア登録は平成19年7月）車いすや、家族同伴で来られる方々と将棋や会話を通して、楽しく過ごしていただければ幸いです。今後の活動継続を願っております。

◆兵庫虹の会（カレッジ関連グループ；宮城智子・音2）：7~8年前から兵庫パンジーの会のメンバーや兵庫区ひまわり（独居高齢者訪問グループ）の仲間と、編み物の稽古を始めたグループでボランティア名を付け2008年度のボランティア助成金申請をし2009年5月に助成金を頂き「兵庫虹の会」として発足しました。その後、老健施設や区ボランティアセンターから依頼を受け活動し、カレッジ卒業生や地域住民参加のもとに活動を続けています。

西区会がスプリング8見学に

区会行事として、7月31日に48名の参加を得て、播磨科学公園都市内にある「スプリング8」と龍野市にある醤油工場の見学に行きました。「スプリング8」は世界最高クラスの放射光の発生が可能な装置で、癌治療にも威力を発揮しており、東洋一の施設です。「スプリング8」は「放射光」と呼ばれる非常に明るい光を使って、原子レベルの微細な構造や動きを観察することもできる、いわばスーパー顕微鏡でもあるのです。次に、醤油工場を一時間かけて見学をしました。暑さに負けず2か所の見学を終えて、無事帰路につきました。社会見学として、良い経験をしました。次回の企画をお楽しみに？ご参加をお待ちしています。

（堺寿代：音文9・西区会）



スプリング8の説明会

WAからのお知らせ



動物との交流 in KSC

〈動物たちのおつき合い考える〉をテーマに、10月25日カレッジホールで「動物との交流フェア in KSC」が開催されました。5人の専門家によるリレートーク方式で、身近な犬や猫の問題から、ペットの法律のお話など興味溢れる内容です。ホールでは、10月21日～31日の間、動物たちの写真を展示。詳細は、65号にて紹介予定です。

須磨パティオでお買いもの介助

OMこうべ須磨パティオ（名谷）から、車椅子やバギー利用者を対象にした「お買いものサポーター」の協力要請を受け、グループ〈わ〉で実施することになりました。既に、16人のサポーターが決定していますが、後4～5人必要です。活動時間は、平日11:00～17:00。月2回程度で、ショッピングの付き添い、店内の案内、米や飲料物の積み下ろしなど。交通費と謝金あり。10月下旬に実地研修を行い、実施は11月からの予定です。問い合わせは、グループ〈わ〉芦田まで。（078-743-8101）

●こうべUD大学 第7回講座「震災とUD」

12月21日（土）13:30～15:30。研修館ホールで。福島市からゲストを招き、震災と仮設住宅のテーマで講演会を開催します。先着100名。入場無料。問い合わせは、市民福祉振興協会経営企画課（743-8193）まで。

●パソコン何でもお好み塾

長田区の地域人材センターで、毎週金曜日の9:30～11:30。受講料は1時間500円、個別学習を行っています。希望者はグループ〈わ〉まで。チラシも置いています。（電話078-743-8101・FAX078-743-3830）

●一ノ谷プラザが臨時休館

11月17日（日）に行われる神戸マラソンで、一ノ谷プラザは10キロコースのゴールになり、控室に使用されるため、前日の午後と当日は全面休館となります。問い合わせは、一ノ谷プラザ（731-8353）へ。

●訂正 63号6面「25年度新役員」の中で、灘区会長は木下完治・10面「皆で声援」の中にある西区にある青陽東養護は、灘区の誤りでした。お詫びして訂正します。

●65号（1月号）の発行は、2014年1月中旬です。

区会活動に参加を

しんざわ

〈わ〉に入会するとき、部会（サークル）のことは頭に入れている人が多いが、区会に至っては、「それは何ですか？」とよく聞かれる。そんな時は、カレッジの地域交流会の話をする。同じ地域に住んでいる者同士が親睦を深め、地域に根ざしたボランティア活動をする…それが〈わ〉の区会活動である。

長田区会では、軽度障害児の付き添い散歩と老人施設の喫茶手伝いなどを行っている。付き添い散歩は、ボランティアが園児と手をつないで、しゃべりながら歩く。初対面なので園児が何でもしゃべってくれるよう心がける。やがて打ち解けて、ニコニコと話してくれようになる。これで散歩の値打ちは充分である。

喫茶手伝いは、お年寄りを喫茶会場へ車椅子で誘導し、コーヒーとケーキを運ぶ。そうすると「ありがとう」と、本当に嬉しそうな笑顔をされる。ずっと続けていると、顔を憶えてくれ、握手もしてくれる。散歩も喫茶も、実に楽しい。皆さん、区会活動に参加しましょう。

（藤田忠之 福13・長田区会）

編集後記



★「開催か中止か」20周年記念行事の前日は、台風24号の接近で大揺れ。広報も、2段構えで誌面構成を検討するなど、「てんやわんや」の1日でした。結果は無事開催、でも参加者に影響が…。不測の事態は避けられませんが、どう対応するかが大切だと実感しました。（井口久美子）

★「やあ、生きていたんやね」。大震災当時、カレッジ生はこんな挨拶を交わす日々だったそうです。震災シンポの資料を集める過程で、1・2期生十数人から貴重な体験談を伺い、「ぎやらりー わ」特別号に掲載しました。ボランティアに明け暮れた先輩の思いを汲み取って頂ければ…。（南形徹）

★広報担当になって半年になろうとしています。記事作成もさることながら、寄稿された原稿を編集することは非常に難しいと思っています。限られたスペースに伝えるべき意義を薄めずに短縮しなければならぬからです。自分の力不足と寄稿者に対し、済まない気持ちで一杯です。（北村洋）

〈わ〉のメルアド＝わ本部 group_wa@wa-net.jp ぎやらりーわ wa_gallery@wa-net.jp

グループ わ 10～12月のイベント

10月25日(金) 10:00～14:45 K S Cカレッジホール	リレートーク「動物たちとのお付き合いを考える」 私たち人間と動物との素敵な関係を創っていくために動物とのお付き合いについて考えていく。 主催：シルバーカレッジ 共催：王子動物園、グループ わ 他	078-743-8100 K S C事務局
11月10日(日) 10:00～15:00 こうべ環境未来館	和布(着物、浴衣)リメイク講習会 捨てたくても捨てきれず、箆笥に眠る古着でエコバッグ、洋服、布草履などのリメイクを楽しむ。 協力：たんすの肥やし、あじさいクラブ(生16有志)、カーネーション	078-743-8002 神戸環境未来館
11月20日(水) 9:30～14:30 シュラインロード から逢山峡へ	秋の森林浴ウォーキング 神戸の街が一望できる天覧台、野仏の佇むシュラインロードから清流の逢山峡へ、秋の1日をのんびりと歩く。 協力：森の仲間	078-743-8101 グループ わ
11月29日(金) 9:30～12:30 神戸市立花山小学校	日本伝統文化体験講座 日本の伝統文化を体験することにより、伝統文化に対する関心と理解を深め、豊かな人間性を養う。 協力：大正琴プリムラ、楽遊クラブ銀雅、茶道、華道、着付け有志	078-743-8101 グループ わ
10月2日(土)～11月24日(日) 木津の里	里山の風景と農村文化の発見 農村歌舞伎や里山整備の活動を紹介 主催：神戸市環境局地球環境課 協力：里山和楽会	078-995-3192 神戸環境未来館
11月24日(日) 木津の里	まちかど文化祭 農村歌舞伎などの写真展示とどんぐり工作教室の開催 主催：神戸市地域人材支援センター 協力：グループわ	078-646-8128 神戸市地域人材支援センター

〈わ〉ペタンク大会24組が熱戦！

グループ〈わ〉の第3回ペタンク大会は9月28日、村の球技場で開催。夏を思わせる猛暑の中、24組48人が熱戦を繰り広げました。午前中の予選を勝ち抜いた8組で決勝トーナメントが行われ、伊須原一樽井組が優勝。2位は大西一内海組、3位は南一中谷組と原一落田組でした。2-4位チームによる交流トーナメントも行われ、終日、なごやかにペタンク交流を楽しみました。大会はペタンク同好会(丸草佑次代表)の協力で実施しました。



飛び賞、BB賞などは9人ゲットしました。絶好のゴルフ日和のなか、ベテランも初心者も和気藹々とゲームを楽しみました。

北区会もGゴルフ

北区会(土井昭政会長)のグラウンドゴルフ大会が10月3日、しあわせの村の球技場で開かれ44人が参加しました。9班に分かれ2ラウンドずつ戦った結果、優勝は小畑浩昭(46)、2位は筒井正宏(47)、3位は仲多賀夫(48)が獲得。とまり賞は10本が出ました。大会後、会場をあおぞらに移し、昼食を共にしながら、表彰式と懇親会を行いました。



秋空のグラウンドゴルフ大会盛況

秋晴れに恵まれた10月17日、グループ〈わ〉主催のグラウンドゴルフ大会がしあわせの村の球技場で開かれました。地域・サークルから1組3人で16組48人が参加。2ラウンド、ショットガン方式で、約2時間にわたってスコアを競いました。チーム優勝は森の仲間Aが獲得。2位は北区会A、3位はぴかぴか隊でした。個人優勝は黒崎幸さん、2位は加藤邦彦さん、3位は仲多賀夫さん。とまり賞は9人、

●まちかどキャンパス西区で開催

シルバーカレッジの「まちかどキャンパス」が11月9日(土)13:00～15:30、西区民センター2Fなでしこホールで開催されます。松村浩貴・兵庫県立大准教授による講演「ダイナミックウォーキング」、山中佑起子さんのマリimba演奏があります。参加無料。申し込みは往復はがきか、FAXで事務局まで。締め切りは10月25日。(☎743-8100・FAX078-743-8103)



玄関前に建つ20周年記念碑
今井学長の揮毫・高さ80cm 幅150cm



花実の森・バーニングアート

学園祭



未来館・草木染め



トピックス

和で遊ぼうをテーマに8月13日～18日、水の科学館で開かれたイベントに、夏休みの親子連れ1,300人が来場しました。先生役は、木工・ケナフ・花実の森・未来館・うらしまたろう・カーネーションの6サークル。猛暑の中、お疲れ様でした。
(広報：井口久美子)

写真撮影：木村成男・中屋好生・菅田忠志

本場アルゼンチンより来日！タンゴの名曲で送る、情熱のリズムと哀愁の調べ。

ベスト・タンゴ！ カルロス・ルルフィ楽団

【日時】 11月23日（土・祝）
14:30 開場 15:00 開演

【会場】 神戸文化ホール中ホール

【料金】 1階席 3,500円
2階席 3,000円
【全席指定・税込】

【予定曲目】 ラ・クンパルシータ、リベルタンゴ、レクエルド、アディオス・ノニーノ、エル・チョクロ 他

割引優待
この広告を、神戸文化ホール1階プレイガイド窓口へご持参頂きますと、本公演チケットを1割引（おひとり4枚迄）でご購入いただけます。ただし、その他の優待証とは併用できません。

神戸文化ホール 問合せチケット発売所 **078-351-3349**

神戸文化ホールプレイガイド 受付時間 / AM10:00～PM18:00

他 チケットぴあ、ローソンチケット CNプレイガイド などでも発売中！
主催：公益財団法人神戸市文化振興財団 神戸文化ホール